

「終活」リスクを最小限に 葬儀の不安解消から空き家売却まで

人生の最期に向けて準備する「終活」。親を見送るとき、自分のとき。そして相続手続き、遺品整理、不動産売却、遺品の買取など、元気なうちに「遺族が困らないようにしておく」ことが「終活」の基本。遺産を巡って兄弟げんかするのは、よく耳にする話。せめて、綺麗に終わりを迎えるために準備をすることは、安心して長生きする秘訣でもある。



これからの人生のこと
気軽に相談できる人は
身近にいますか？



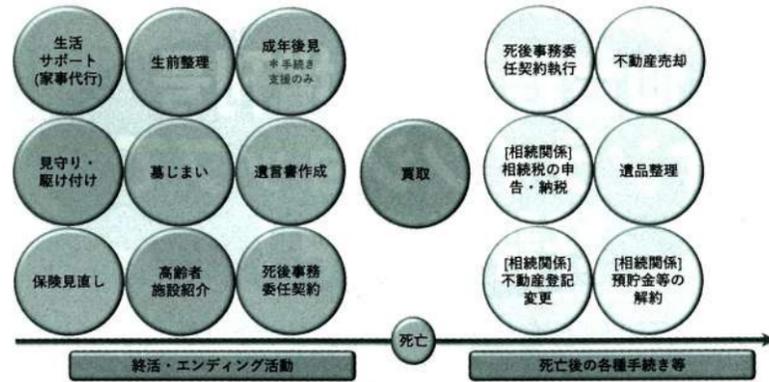
ある地元葬祭業者によると、「葬儀を経験した人が後悔したこと」として最も多いのが、「情報収集」だった。葬儀が終わってみると、喪主が感じたのは「あらゆる面での情報収集不足」が第1位だったというのだ。もともと、「その時」は突然やってくる人が多いので、「何とかなるだろう」と考えている方が圧倒的。家族から本人に促すのはなかなか言いにくいのが現実なので、や

葬儀	式場設備
葬儀下駄箱	外葬り
電機式忌中灯	矢印付案内板
受付所設置	焼香用具
霊柩車 花祭・洋型のみずか	枕掛け
納棺用具一式	白木位牌
ご遺体保冷剤 2部付	収骨用具
死亡届けの手続き	火葬場でのお世話
葬儀費精算 (記帳簿一式)	祭壇用供物
火葬用生花・供物	法要案内状・席札
司会進行	会葬礼状 100枚まで
オリジナル礼状制作費	

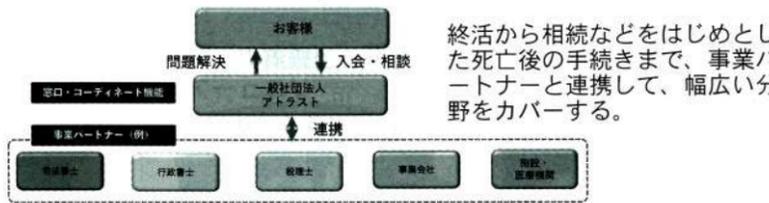
清月記のホームページから

はり残される家族のことを考えて本人が先に動くことが大事になってくる」と、その営業マンは指摘する。
トラブルを避けるためまず相談。葬儀の事前見積もりは必ず
ここ数年、葬祭業者による積極的な告知もあり事前相談は増えている。地元大手葬祭業の清月記では月に120件もの事前相談を受ける。特に葬

儀代を巡るトラブルは昔から多く発生し、事前の見積もりは必須だ。同社では、葬儀のとき実際にどの程度費用がかかるのかを計算できる『自分でお見積もり』という簡単に計算できるシステムを、業界ではいち早く導入した。自宅葬を選んでみると、祭壇から会葬礼状まですべて葬儀が完結するセットとなっており、後は、それぞれ



一般社団法人アトラストのサービスラインアップとサービス体制



終活から相続などをはじめとした死亡後の手続きまで、事業パートナーと連携して、幅広い分野をカバーする。

のグレード(セット価格)を選択すればよい。明瞭で分かりやすい。会館葬も同様に選択出来る。同社の角地了取締役統括本部長は「ご葬儀について不安を解消するためまず相談してほしい」と語る。仙台で遺体保存・修復の「エンバリーミング」も可能に

遺体を保存・修復する技法「エンバリーミング」が、仙台上陸、広がりを見せているのも最近の大きな話題の一つ。エンバリーミングは遺体に防腐、殺菌消毒処理を施して感染症などを防ぎ、長期間、遺体を衛生的に保存する技術。遺族の意向に沿い、事故などによる遺体の損傷や長い闘病による顔や身体や

つれなどを一定程度整え、顔色を生前に近い姿に戻し、化粧などを行う。エンバリーミングが国内で注目を集めたのが、1995年の阪神・淡路大震災のときから。外国人エンバリーマーにより修復・保存された遺体の姿は、遺族の悲嘆を和らげるグリーンフケアにもつながった。
相続手続きから空き家売却までワンストップサービスの「アトラスト」

リーニングの「遺品整理」、空き家になる「不動産の売却」、「遺品の買取」まで、ほぼ死亡後に必ず発生する手続きを一括して解決するもの。同社が、司法書士、行政書士、税理士、コンサルタントなどの事業パートナーと連携して、安心

具体的な、不動産の登記変更、預貯金口座の解約、相続税の申告・納税の「相続手続き」。故人が生前に使用していた遺品の整理からハウスク

電話で相談、ヒアリング後、専門家などと商談、見積り作成後、サービスを申し込む。アトラストは会員制の組織で、初回相談から見積り作成までは無料だが、提携先に依頼する際は、入会金10000円の入会が必要だ。年会費は無料。アトラストのサ

アトラストの坂野英明事務局長は「事業パートナーとの商談には全て同席するなど、最後まで責任をもって対応する」という。不動産「終活」では、金融機関や不動産業も参入しているが、ワンストップサービスはアトラストだけ。相談・問い合わせは0120(09)2019まで。